『理論心理学研究』

Japanese Journal of Theoretical Psychology

執 筆 規 程

1.　投稿論文の叙述は、できるだけ読みやすく、簡潔に、題なども、冗長にならないようにする。

用紙

2.　ワードプロセッサ、和文タイプライターを用いる場合は、A4 版の用紙を縦長に使用し、各ページ 32 字＊ 25 行に印字する。行間は１行あけ、用紙の上下左右に十分な余白を残す。原稿用紙を用いる場合は 400 字詰のものを使用する。

文字

3.　文字は常用漢字、現代かな使いを原則とする。ただし、引用文にあっては、事情により例外が認められる。

4.　本文中には、以下の場合を除き、原則として欧字を用いない。

　4-1　欧文文献の著者名

　4-2　外国人名。なお、中国系人名で現代のものは漢字とし後の（　）内にローマ字表記を入れる。

　4-3　初出の欧語術語（必要な場合にのみ日本語術語の後の（　）内に示す）

　4-4　日本語訳語を検討するために必要な場合

　4-5　次項に示すもの

5.　欧字を用いる場合は活字体を原則とするが、次のものはイタリックとする。原稿の当該箇所に下線を入れ、「イタ」と指定しておく。

　5-1　本文中に引用されている欧文書籍の標題と欧文雑誌の名称

　5-2　数式中の数を表わす文字

　5-3　数値や量を表わす文字

　5-4　SD、T、p、df、r 等、統計法に用いられる記号

　5-5　動植物のラテン語学名、特殊な術語

　5-6　薬品名

6.　ギリシャ文字など、特殊な文字の場合は指定しておく。

7.　動植物名などは原則としてカタカナで書き、必要な場合には原名、学名を(　)に入れる。

　　例　　ニホンザル（Macaca fuscata）　イタ

数字

8.　数字は、原則としてアラビア数字を用いる。ただし、「二者択一」などの熟語の場合は漢数字を用いる。

注

9.　注はできるだけ避け、その内容をこなして本文中に組み入れる。止むを得ない場合は脚注とし、

本文中の対応箇所を通し番号で明示する。

文献の引用

文献の引用に関してはアメリカ心理学会（APA）のスタイルに準拠する。以下に基本的な事項を示すが詳細は同学会発行の Publication Manual を参照されたい。

10.　本文中における引用

10-1　文章として文中に引用するとき

10-1-a １人のとき　Madsen（1985）　　村田（1988）

10-1-b ２人のとき　Staats and Mos（1987）　　豊川・柳井（1982）

10-1-c　３人以上、５人以下のとき、初出の場合すべての姓を書く。

Foulkes, Spear, and Symonds（1966）　池上・永井・斉藤・品川（1994）

以降は、第２著者以下の姓を省略し、Foulkes, et al.（1966）　　池上ら（1994）とする。

10-1-d ６人以上のとき、初出の場合から第２著者以下の姓を省略する。

10-2　参考として文後に引用するとき

10-2-a １人のとき　（Madsen, 1985）　　（村田, 1988）

10-2-b ２人のとき　（Staats ＆ Mos, 1987）　　（豊川・柳井, 1982）

10-2-c　3人以上、５人以下のとき、a と同様に初出の場合すべての姓を書き、以降は第２著者以下の姓を省略する。

（Foulkes, Spear, & Symonds, 1966）　→　（Foulkes, et al. , 1966）

（池上・永井・斉藤・品川, 1994）　→　（池上ら, 1994）

10-2-d　6 人以上のとき、初出の場合から第２著者以下の姓を省略する。

10-2-e　複数の文献を引用するときは引用文献欄の配列順にならう。

（McKellar, 1979; Shepard, 1978, 1983）

引用文献

11.　引用文献は著者名、刊行年（カッコに入れる）、標題、雑誌の場合は誌名、巻、ページ、単行本の場合は出版社名、その一部を引用した場合は該当ページを示す。各要素は欧文の場合はピリオド（ .）で区切る。引用文献は本文の終わりに著者の姓のアルファベット順に配列し、同一著者では、年次順、同年の場合は標題のアルファベット順に配列し、1998a、1998b のようにして区別する。書名、雑誌名と巻数には下線を入れイタと指定する。以下にいくつかの例を示す（「イタ」表記は例では省略してある）。

11-1　雑誌の場合

雑誌名は省略しない

Peterson, G. L. (1981). Historical Self-understanding in the social sciences: The use of Thomas Kuhn in psychology. Journal for the Theory of Social Behavior, 11,1-30.

麻生武（1990）乳幼児期の“ふり”の発達と心の理解　心理学評論, 40, 41-56.

11-2　単行本の場合

Madsen, K. B. (1988). A history of psychology in metascientific perspective.

Amsterdam: North-Holland.

丸山高司（1985）人間科学の方法論争　勁草書房.

11-3　編集本の場合

Koch, S. & Leary, D. E. (Eds.). (1985). A century of psychology as science. New York: McGraw-Hill.

Kendler, H. H. (1987). The good divorce is better than bad marriage. In A. W. Staats & L. P. Mos (Eds.), Annals of theoretical psychology, Vol. 5 (pp. 55-90). New York: Plenum Press.

高橋澪子（1975）心理学における方法論の史的展開　末永哲郎（編)心理学研究法１: 方法論　第２章（pp.19-27）東京大学出版会.

11-4　翻訳本の場合

Bertalanffy, L. Von (1968). General system theory. New York: Braziller. 長野敬・太田昌邦（訳）（1972）一般システム理論　みずず書房.

図表

12.　図表の番号は、図１、表１などとする。図表の説明や図表中の表記に英文を用いてもよい。その場合、番号は Figure 1、Table 1 などとする。ただし、１論文中に和文と英文の図表を混在させてはならない。

12-1　図表の挿入位置は本論文の左の余白に図表番号で示す。

12-2　図表の原稿は明瞭、正確に書く。図表が本誌の欄内に収まるように、大きさ、形、字数などについて、よく考慮する。

12-3　図表には、図表番号、表題、および簡潔な説明をつける。なお、引用図表には著者名と年号を明記する。

例　（Madsen, 1988）

13.　図版の作成にあたっては次の点に留意する。

13-1　原図

原則としてパソコンソフトによる作図をプリンタで印刷したものを用いる。手書きの場合は黒インクを用いる。掲載サイズの２倍程度に作図し、読みやすさを考慮して図版中の文字の大きさには特に注意する。

13-2　写真

掲載サイズの２倍程度の印画紙(光沢紙)に、コントラストがあまり強くないもの(白黒の中間の色調が出ているもの)を用いるのがよい。

13-3　他文献からの引用

a.　文献の原著者および出版社の許可を得ること。

b.　コピー機で複写する場合は､鮮明なものを提出すること。

c.　写真で複写する場合は、凸版作成に支障のないよう図地のコントラストを強くし、地を純白にする。サイズは掲載サイズの２倍程度が望ましい。

(1999 年 2 月 28 日作成。なお、「心理学評論」誌の執筆規定を参考にさせていただきました。)